UDC shinshu 2019 Report

信州地域デザインセンター
2019年度 活動報告

CONTENTS

01 2019年度活動エリア …… 1

02 信州地域デザインセンターについて …… 3

03 構成団体／メンバー …… 4

04 活動報告

・長年の課題だった市所有の遊休地を
開かれたひろば空間へ（諏訪市） …… 6

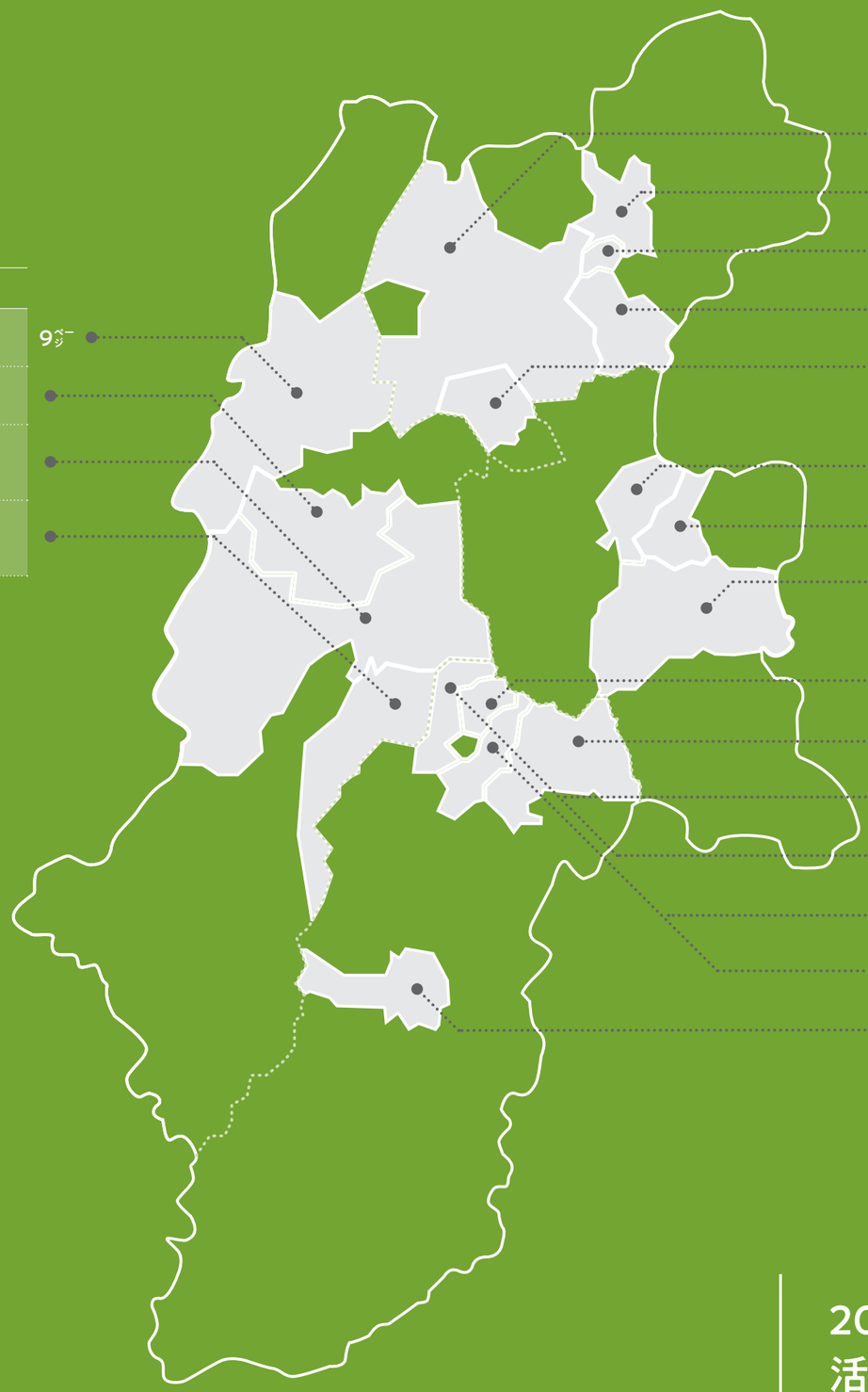
・先端技術の活用により利便性の高い
公共交通網を目指す（岡谷市） …… 7

・これからの駅と観光地の在り方をみんなで
考えてレッツトライ！（千曲市） …… 8

・未来の商店街ビジョンを
市民と行政で共有する場づくり（大町市） …… 9

05 設立記念シンポジウム／まちづくりセミナー …… 10

06 活動拠点のご紹介／メディア掲載実績 …… 11



中信	取組内容	
大町市	「エリアプラットフォームづくり」	9ページ
安曇野市	「空き地の有効活用」	
松本市	「地域資源を活用した観光拠点づくり」	
塩尻市	「地域資源を活用した観光拠点づくり」	

北信	取組内容	
長野市	「未来ビジョンづくり」	
中野市	「病院を核としたまちなか再生」	
小布施町	「郊外集落のコミュニティ維持」	
須坂市	「エリアプラットフォームづくり」	
千曲市	「多拠点ネットワーク型まちづくり」	8ページ

東信	取組内容
東御市	「公民連携による公園の利活用」
小諸市	「エリアプラットフォームづくり」
佐久市	「地域資源を活用した観光拠点づくり」

南信	取組内容	
下諏訪町	「公有遊休財産の有効活用」	
茅野市	「利便性の高い駅前空間デザイン」	
岡谷市	「ニーズに合った公共交通網の再編」	7ページ
岡谷市	「未来ビジョンづくり」	
諏訪市	「公有遊休財産の有効活用」	6ページ
諏訪市	「未来ビジョンづくり」	
駒ヶ根市	「活力が低下した商店街の再生」	

2019年度 活動エリア

2019年度は、頂いた相談の内容を踏まえ、課題の整理や検討体制の構築サポート、専門家や民間企業とのマッチング等、様々な関わり方により、施策の立案や具体化に向けたり支援を行いました。

今後、取組の進捗に応じて、民間企業や大学との連携をはじめ、分野連携、広域連携等のプロジェクトを組成し、持続的なまちづくりに取り組んでまいります。

01

信州地域デザインセンターについて

02

長野県内の都市においても、近年の人口減少に伴い空き家・空き地などが増加するいわゆる「都市のスポンジ化」が進み、都市の機能維持が難しい局面を迎えています。また、環境や景観に対する住民意識も高まっており、地域の課題を踏まえ、特色を活かしたまちづくりが必要となっています。一方で、これら社会情勢や価値観の変化等により、近年のまちづくりは、専門化、高度化、多様化が進んでおり、行政だけではなく、様々な立場の方が協働してまちづくりを進めることが求められています。

『信州地域デザインセンター（UDC信州）』は、それら課題に対応するため、まちづくりの主体である市町村のサポート役として、2019年８月に設立されました。UDC信州は、**公・民・学が連携して設立するプラットフォーム**であり、構成団体が協力団体とも連携しながら、市町村の**まちづくりを支援**するほか、市町村等の職員を対象にしたセミナーや研修会の実施による**まちづくり人材の育成**、県内外の情報を共有するための**情報収集・情報発信**を行います。UDC信州では、これらの活動を通してまちづくりを推進する「場」や「環境」を作り、確かな暮らしが営まれる美しい信州の実現に向け貢献してまいります。

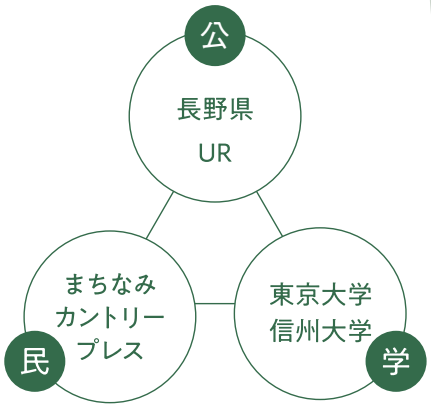
▲ UDC信州　理念および活動

03

構成団体

信州地域デザインセンター（UDC信州）は、
以下の団体で構成されています。

- 公 長野県、UR都市機構
- 民 株式会社まちなみカントリープレス
- 学 東京大学、信州大学



メンバー紹介

センター長 東京大学

出口 敦 *Atsushi DEGUCHI*

UDC信州は、全国で20番目のアーバンデザインセンター(UDC）として発足しましたが、県が中心となり設置された初めてのUDCです。長野県ではこれまで各地で多くの活発なまちづくりの取組が進められ、成果を上げてきました。その一方で、市町村単独で取組むことには限界もあり、地域が広域で連携して資源をつなぐと共に、協力してまちづくりの担い手を育てていくことも重要な課題です。「センター」には、様々な人や情報や活動が集まるという意味があり、人と人を繋ぎ、地域をデザインする発想で将来ビジョンを描き、新たな事業につなげていくチャレンジが長野県で始まりました。公・民・学連携の力を結集してご一緒に取組んでいければと思います。

副センター長 信州大学

林 靖人 *Yasuto HAYASHI*

長野県は様々なランキング等で移住したい県No.1の評価を頂いています。日本アルプスが創り出す地勢・気候・風土があり、77市町村の個性豊かでゆとりのある・落ち着いた暮らしが、魅力や価値の源泉だと私は考えています。しかし、次の100年を考えると、従来の人口増加やマス志向を基調としない地域・まちづくりが必要になり、移動や居住の仕方、人が行う仕事などに対する価値観の変化も考慮することが必要です。UDC信州では、これまでの地域の良さ、これからの地域の豊かさ、まちづくりの仕方について皆様と議論しながら、公・民・学の連携で地域の個性と信州全体の魅力を高める未来への取り組みを進めていきたいと思います。

副センター長 東京大学

三牧 浩也 *Hiroya MIMAKI*

信州というあまりに広大なフィールドにUDCはどう向かい合うべきか。全国ではじめて「県」が設立するUDCはどのような役割を担うべきか。こうした問いのなか、設立準備当初から、「広域」というキーワードがありました。大きな自然要素等を拠り所に、県の立場を活かして広域連携を促すというアプローチはわかりやすい一方、現場に深く入れば、各地の「民」の興味深い活動や、現地に根差した「専門家」の経験・知見の深さに気づかされます。活動を広域化するには、こうした一つひとつを丁寧につないでいくアプローチも同時に重要です。俯瞰的な視点と現場の目線とを両立する新たな「地域デザイン」の方法論を探ることも使命と認識し、活動を進めていきたいです。

チーフコーディネーター（~R1年度） 長野県

高倉 明子 *Akiko TAKAKURA*

UDC信州立ち上げメンバーの高倉です。信州の多彩なまちの再生を行政主導ではなく、多様な主体が継続性をもって進める組織を模索する中、出口先生やUR都市機構など様々な方に巡り会い、支えられ、短期間でUDC信州が設立できました。今後は、早期にUDC信州効果がまちの変化に発現できるよう不退転で活動を進めていきます。

チーフコーディネーター（R2年度~） 長野県

高野 佳敏 *Yoshitoshi TAKANO*

♪信濃の国は十州に境連ぬる国にして～と県歌「信濃の国」にも唄われているように、長野県は広大な面積を有していることから、地域ごとに歴史や風土も違っています。だからこそ、それぞれのまちの個性を活かしながら、個々のポテンシャルを最大限引き出せるよう、信州らしいまちづくりを支援していきたいと思っています。

コーディネーター 株式会社まちなみカントリープレス

荒川 清司 *Kiyoshi ARAKAWA*

信州のヒト・モノ・コトに関するあらゆる情報を収集し、KURAという媒体を通じ情報発信を行っています。地域ごとに培われた素晴らしい文化や伝統、歴史を踏まえた新しいまちづくりのスタイルを、民間の視点からUDC信州の活動へつなげています。

コーディネーター 長野県／UR都市機構

中平 眞裕 *Masahiro NAKAHIRA*

長野県は、山や川、緑、空などの自然、中山道や寺社などの歴史、そのなかで培われた穏やかな県民性など、人を惹きつける魅力がたくさんあります。こうした魅力を“まち”として余すことなく発信できるようにしていきたいと思います。

コーディネーター 長野県

倉根 明徳 *Akinori KURANE*

東京、岩手、石川、佐賀に住み、４４都道府県を旅行しましたが（あと３つでコンプリート！）やっぱり信州が一番です！そんな信州の魅力をさらに高めるため、様々な方と連携し、各地にワクワクするようなプロジェクトを仕掛けていきます！

コーディネーター 長野県

征矢 悠 *Yu SOYA*

長野県民でありながら県内の各地域の特徴や魅力などまだまだ知らないことがたくさんあります。市町村や地元の方々、民間企業等の皆様に色々教えていただき、皆さんと一緒になって長野県のまちづくりに取り組んでいきたいと思います！

コーディネーター 長野県

東城 葵 *Aoi TOJO*

大学時は建築を学ぶ一環で住民や行政とまちづくりPJを協働したこともあり、今、UDC信州でまちづくり支援に携われ、とても感慨深いです。未熟者ですが、地域の多様な課題や未来へ繋がるまちづくりを一緒に考え、取り組んでいきたいです。

コーディネーター 長野県

佐久間 圭子 *Keiko SAKUMA*

信州の居心地の良さが好き。
信州で育ったことで、外の世界を知りたくて都会を転々としたものの戻るところはココでした。UDC信州での活動を通じて人と人がつながるサポートをしながらもっと好きな信州に！

アドバイザー 東京大学

新 雄太 *Yuta SHIN*

これまでの歴史をどう受け継ぎ、これからの暮らしをどう捉え、いかに動いていけばいいのでしょうか。地域は、「人」です。私たちは地域のお一人お一人と直に手を携え、何度も現地に立ち、目を凝らして歩き、対話を大切にして寄り添いながらも、同時に広い視野を持って新たな価値を見出していきます。これからの信州のありたい姿をともに描き、形にしていきましょう。

アドバイザー ひと・ネットワーククリエイター／広場ニスト

山下 裕子 *Yuko YAMASHITA*

10代の頃からスキー・温泉・蔵めぐり・街道散歩・神社仏閣・りんご狩り・人形劇と数えきれないほど信州を訪問。長野県の魅力は雄大な自然の恵みと文化の多様性。隣接県数八つは日本一。多様な入口のある信州の魅力を、全国初となる広域型UDC信州の一員として皆様とクリエイトしたく。どうぞ、よろしくお願いします。

活動報告

UDC信州は2019年8月より活動をスタートしました。
長野県の総合計画である「しあわせ信州創造プラン2.0」の実現に向けて、ヒトや組織のネットワークのハブとなり、様々なまちづくりの企画提案、助言、事業推進支援を行うべく、3つの活動（支える、育む、発信する）に取り組んでいます。ここでは、2019年度の主な活動を紹介します。

04

支える（まちづくり支援）

長年の課題だった市所有の遊休地を開かれたひろば空間へ 【諏訪市中心部】

現状

諏訪市は、諏訪湖、上諏訪温泉、諏訪大社、霧ケ峰を擁し、年間600万人以上の観光客が訪れている観光都市です。2023年度に諏訪湖周サイクリングロードが全線供用開始、2024年度には（仮称）諏訪スマートインターチェンジ供用開始を控えており、今後の関係人口の増加に期待が寄せられています。

また、諏訪湖畔の旧東洋バルヴ跡地（約7.2ヘクタール）において諏訪圏工業メッセが開催されるなど、諏訪地域のものづくり文化の発信や企業間連携などを促進しています。

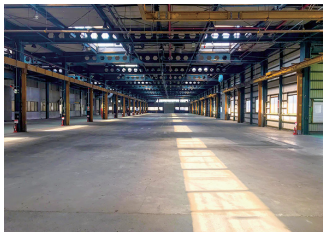
しかしながら、人口減少率3.3%、高齢化率31%（総務省H30国勢調査）、空き家率23.3%（H25住宅・土地統計調査）となっており、定住人口獲得のためにも魅力あるまちづくりが求められています。

UDC信州の支援

市は2006年に旧東洋バルヴ跡地を取得し、2019年3月に跡地活用基本構想を策定しました。UDC信州は市からの要請を受けて、2019年10月に発足した諏訪湖イベントひろば（旧東洋バルヴ跡地）基本計画専門委員会の事務局に名を連ね、将来を見据えた利活用の方法や検討の進め方の提案など、委員会の運営をサポートしています。

また、サイクリングロードやスマートインターチェンジの供用開始により都市構造が変わることを見据え、諏訪市の歴史や文化・風土を活かしたまちづくりビジョンの検討や地域マネジメント体制の構築、諏訪湖等の貴重な地域資源を介した周辺市町との連携プロジェクト等について、今後市や民間企業とともに検討を進める予定です。

▲諏訪湖畔の一等地。



▲昭和30年代に建てられた建屋内。

DATA

①諏訪市　②約49,000人　③109㎢
④諏訪湖、上諏訪温泉、諏訪大社上社本宮、霧ケ峰高原
⑤諏訪大社式年造営御柱大祭、諏訪湖祭湖上花火大会
⑥味噌天丼、わかさぎ

①市町村名 ②人口（2020年4月1日現在） ③面積 ④主な観光地 ⑤主な祭り ⑥ご当地グルメ

voice

諏訪湖イベントひろば（旧東洋バルヴ跡地）基本計画策定のタイミングで、ありがたいことにUDC信州が立ち上がりました。
この壮大な事業は、とても行政単独で出来るものではありません。民間活力導入の可能性を踏まえた上で、バランスよく専門委員会事務局を支えていただいております。
共に歩んでいきながら、地域活性化を目指すとともに、引き続きサポートをお願いします。

諏訪市 企画政策課
寺島 和雄 さん

先端技術の活用により利便性の高い公共交通網を目指す　【岡谷市中心部】

▲ 市内を走るシルキーバス

現状

岡谷市は、かつて「シルク岡谷」と呼ばれ、明治時代より一大生産地として栄えた製糸産業の社屋や工場等の近代化産業遺産、昭和初期に生産日本一だった味噌蔵等の魅力的な建物がまちなかに点々と残っています。

諏訪市と同様に、諏訪湖サイクリングロード、（仮称）諏訪湖スマートインターチェンジの供用開始を４年後に控え、関係人口の増加に期待が寄せられています。

一方で、大型店の相次ぐ撤退、人口減少や高齢化（人口減少率６％、高齢化率３４％（総務省Ｈ３０国勢調査）の進展により、中心市街地の賑わいの停滞、空き店舗・空き家の利活用が課題となっています。

また、市内を走るコミュニティバスの利用者数も年々減少傾向にあり、市の運行事業補助金の増加が大きな負担となっています。今後、更なる高齢化の進行、運転免許証自主返納等に伴い、公共バスの利用機会の増加が見込まれる中、利便性の向上に向けて、如何に利用者のニーズに合ったルート設定及びダイヤ編成が組めるかが課題となっています。

UDC信州の支援

岡谷市は、大型ショッピングセンターの再整備に伴い、徐々に商圏人口が拡大しつつありますが、まち全体の再活性化、効率的な路線バス運行、魅力的な自然空間の積極的な利活用など、複数の分野に跨る課題を多く抱えています。

このうち、効率的な路線バス運行については、民間企業が保有する先端技術を用いた利用実体調査を提案し、社会実験や調査の実施に向けた様々な検討、調整を行っています。

また、UDC信州はこれらそれぞれの課題への対応と並行して、“まちづくり”に向けた市役所各課の横断的な繋ぎや、周辺市町との連携プロジェクト提案等にも取り組んでいきます。

▲ 民間企業を交えた社会実験の検討。大事なのはトライすること。

▲ 地域の方とまち歩き。まずは地域を知ることが第一歩。

DATA

①岡谷市　②約48,000人　③85㎢
④諏訪湖、岡谷蚕糸博物館、イルフ童画館、鳥居平やまびこ公園、横河川の桜アーチ、スカイラインミュージアム
⑤岡谷太鼓祭り、とうろう流し・花火大会、鶴峯公園つつじ祭、小坂公園あじさい祭、出早公園もみじ祭
⑥うなぎ、地酒（神渡・高天）、味噌

①市町村名 ②人口（2020年4月1日現在） ③面積
④主な観光地 ⑤主な祭り ⑥ご当地グルメ

voice

利用したい方々のニーズに合った公共バスの運行が十分にできているのか。市だけでは解決の難しい課題に対し、UDC信州様から最新テクノロジーを活用した乗降調査の可能性を提案いただき、2019年12月から、その実施に向けた検討を行っています。全国的にも例の少ない新しい取組への挑戦となりますが、豊富な知見とネットワークを有するUDC信州の「伴走型」支援を受けながら、一つひとつハードルを乗り越え、実現を目指して参ります。

岡谷市 産業振興部
藤岡 明彦 さん

これからの駅と観光地の在り方をみんなで考えてレッツトライ！ 【千曲市 戸倉駅周辺地域】

現状

千曲市には、戸倉上山田温泉やあんずの里、姨捨の棚田などの観光地があり、多くの観光客が訪れています。市の調査によると約７割の観光客が自家用車で来訪、自家用車を利用しないインバウンドについては団体バスで来訪するケースが多く、観光においては公共交通があまり利用されていない状況です。なお、鉄道や循環バスといった公共交通は主に通勤や通学、通院等に利用されており、利用者数はここ10年横ばいか若干の増加傾向にあります。ただし、「戸倉駅」については、10年で２割程度利用者が減少しており、駅周辺地域の賑わいも減少傾向にあります。

UDC信州の支援

UDC信州は、戸倉駅周辺や戸倉上山田温泉の事業者、商工会、鉄道事業者、観光局、市役所等で組織される「戸倉駅周辺地域の今後を創る意見交換会」にメンバーの一員として参画するとともに、運営のサポートをしています。

多様なメンバーが集まって議論する場は、たくさんのアイデアが出る一方で、議論が拡散してしまうケースもあることから、意見交換会の前には、市役所の担当者や民間のファシリテーターと一緒に、何度も議論の進め方を話し合います。まだ、議論は始まったばかりですが、自家用車ではなく公共交通を使った観光のメリットは何か、公共交通と観光地をワクワクするような方法で結べないか、駅にどんな機能があれば観光客や市民の満足度が上がるのかなどを話し合っており、2020年度には、社会実験の実施も検討しています。

DATA

①千曲市　②約59,000人　③119㎢
④戸倉上山田温泉、あんずの里、姨捨の棚田等
⑤戸倉上山田温泉夏祭り、あんずまつり、稲荷山祇園祭
⑥やしょうま、おぶっこ、おしぼりうどん

①市町村名 ②人口（2020年4月1日現在） ③面積
④主な観光地 ⑤主な祭り
⑥ご当地グルメ・郷土料理

▲ 和気あいあいとした意見交換会。自然と笑顔が。

▲ 世代や立場を越えた場づくりが大切

▲ サイクリングで地域の情報を収集

voice

まずは、UDC信州の方達の人柄の良さに惹かれました♪楽しい雰囲気でできるので、経験不足の私でも気軽に相談できます！また、意見交換会をどのように進めていったらよいか不安でしたが、先進事例を幅広く把握していますし、ファシリテーターなどのスキルも備えているので、様々な角度からのサポートがとても助かりました！

千曲市 生活安全課
湯本 一稀 さん

未来の商店街ビジョンを市民と行政で共有する場づくり

【大町市 中心市街地】

現状

大町市では、定住人口の減少や少子高齢化の進行（2020.4現在の高齢化率36.7%）等により、中心市街地の空き店舗が増加しています。また、これに伴い中心市街地の歩行者・自転車通行量も年々減少しており、過去5年間（2013年～2018年）を比較すると、休日で −40.8%（1,082人）、平日で −55.5%（944人）となっております。これまでに、中心市街地活性化基本計画の策定や空き店舗活用事業、地域文化を活かしたまちなか再生事業など、様々な取り組みを行ってきた結果、空き店舗の活用などが徐々に増えてきています。ただし、依然として空き店舗は多く、中心市街地の再生が大きな課題となっています。

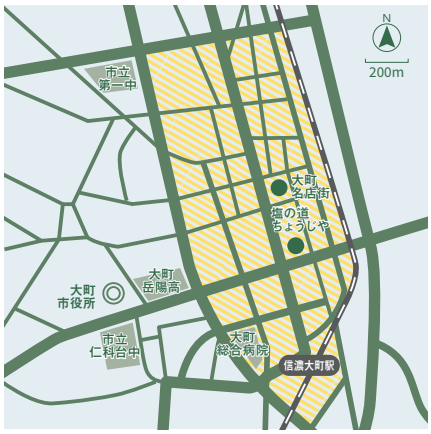
UDC信州の支援

現在、大町市には、「庵寓舎を考える会」「信濃大町まち守舎」など、まちづくりを進める団体や個人が多数存在しています。“大町市を良くしたい”という想いは同じであるものの、まだ官民がうまく連携できていない状況です。上記のとおり、「中心市街地の再生」は大きな課題ではありますが、「こんな場所にしたい」という具体的かつ共通のイメージがなければ連携できない（連携する理由が不明確な）ため、UDC信州では、市役所内に組織された横断チーム（総務部、産業観光部、建設水道部等の部局横断チーム）とともに、公・民・学が連携したまちづくりプラットフォームの設置を検討しています。2020年度には、プラットフォームを設置し、2021年には、地元の高校生の描く将来像も取り入れ、共通のイメージとなる「未来ビジョン」を作っていこうと考えています。

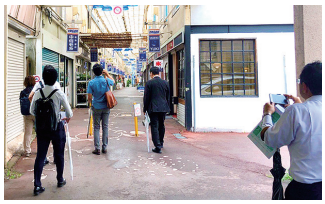
DATA

①大町市　②約27,000人　③565㎢
④黒部ダム・立山黒部アルペンルート、仁科三湖
⑤若一王子祭り、北アルプス国際芸術祭
⑥黒部ダムカレー、おやき

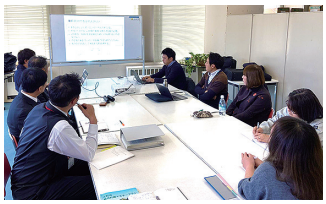
①市町村名 ②人口（2020年4月1日現在） ③面積
④主な観光地 ⑤主な祭り
⑥ご当地グルメ・郷土料理



▲ 塩問屋だった当時の姿を残す「塩の道 ちょうじや」



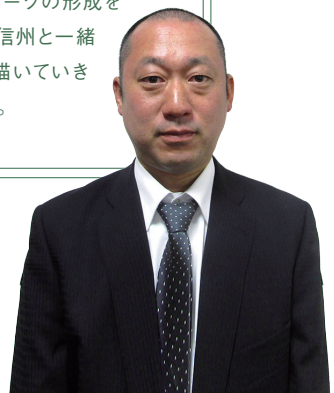
▲ レトロ感たっぷりの大町名店街



▲ 部局横断チームでアイデア出し

voice

昨年度「第4次中心市街地活性化基本計画」が策定され、この4月から新たな戦略を公表し、5つの方針のもと3つの目標を掲げまちづくりを進めています。なかでも、特に重要な方針が「まちづくりに向けた人づくりの推進」であると考え、全ての目標に向かって人的ネットワークの形成を図りながら、UDC信州と一緒に未来ビジョンを描いていきたいと考えています。



大町市商工労政課
商工労政係
傘木 信行 さん

育む（セミナー等開催）

信州地域デザインセンター 設立記念シンポジウム

2019年8月7日（水）、長野県長野市にある北野文芸座にて、信州地域デザインセンター（UDC信州）設立記念シンポジウムを開催しました。当日は、UDC信州のオフィス開所式や内覧会も合わせて行いました。

長野県内の市町村関係者や民間企業からの参加者など約350人と大変多くの方にご出席いただき、UDC信州として新しいスタートを迎えることができました。

シンポジウムでは、出口センター長による基調講演とともに、「長野県における今後のまちづくりとUDC信州の役割」と題してパネルディスカッションを行いました。長野県下のまちづくりの現状と課題に対し、広域型UDCとしてどのような視点で、どのような立場で、どのような役割を担うべきか、活発な議論が行われました。

UDC信州は常に初心に立ち返り、公・民・学連携により長野県内における広域的なまちづくりを推進していきます。

▲ 好天に恵まれた開所式

▲ 白熱したパネルディスカッション

▲ 満員御礼の会場内

まちづくりセミナー

UDC信州では、まちづくりに携わる人材の発掘・育成を目的として、まちづくりに必要となるプランニングや空間デザイン、多様な主体とのコミュニケーションや意見調整などといった様々なスキルを一緒になって習得していく「まちづくりセミナー」を企画し、定期的に開催しています。

第1回セミナーは、テーマを「公共空間の使い方が変われば、ひょっとしたらまちは変わるんじゃないかと思っている、今日この頃のお話」と題し、講師に建築士の西村浩氏（株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役）をお招きし、2019年12月に松本市で開催しました。

佐賀市の「わいわい!!コンテナ」など、公共空間の多様な活用により新しい価値を創出し、利用者側からの目線でまちづくりを行うなど、全国各地で様々な活動を行っている西村さんのお話を聞き、改めて公共空間の在り方を考えさせられました。

また松本市の三の丸地区を対象としたパネルディスカッションも行い、プロジェクトを進める上での視点など、より具体的なお話をお聞きすることができました。

▲ 具体例から学ぶセミナーの様子

発信する（情報発信）

活動拠点のご紹介

UDC信州の活動拠点となっているオフィスは、長野市東後町（善光寺の参道へと通じる中央通り沿い）に位置する築94年の歴史ある元足袋店（旧金石総本店）の2階をリノベーションして活用しています。オフィスは当時の内外装を活かしつつ、長野県庁の若手職員のアイデアを積極的に取り入れ、明るくて落ち着いた居心地の良い空間となっています。

UDC信州では、私たちの活動を広く知っていただく機会をつくるため、オフィスの「オープンデー」なども開催しています。様々な人がここに集まり、一緒になって長野県のまちづくりを考えていく場所・機会にしていければと考えています。気軽にお立ち寄りください。　【営業時間】8:30 ～ 17:15　【定休日】土・日・祝祭日

▲ 築94年の元足袋店をリノベーション

▲ 若手職員で居心地のいい空間づくり

▲ まちづくりに関する本がたくさん

▲ 落ち着いた雰囲気のオフィス空間

▲ オープンデーには高校生や大学生とディスカッション

メディア掲載実績

KURA 2020年4月号 P.21（発行:株式会社まちなみカントリープレス）
「まちのニューウェーブ」のひとつとしてUDC信州の取り組みが紹介されています。
また、新アドバイザーの大町市での取り組みも紹介されています。

自遊人 2020年5月号 P.49（発行：（株）自遊人）
「デザインの旅へ」特集の長野市パートにUDC信州の情報が掲載されています。

UDC信州

信州地域デザインセンター

8:30〜17:15（土・日・祝祭日休）

〒380-0832
長野県長野市東後町16-1 2階

TEL 026-405-4861
MAIL udc-shinshu@pref.nagano.lg.jp
WEB https://udcshinshu.jp
@udcshinshu @udcshinshu @UDCshinshu

長野駅より徒歩16分
※お車でお越しの際は、近隣のコインパーキング等をご利用ください。

◀ 公式WEBサイト

2020.7